

2026年度第5回(10月)北辰テスト対策予想問題【B版】

国語(制限時間50分・100点満点)

1 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(28点)

中学三年生の「僕」(拓海)は、陸上部で一年生のときからともに走ってきた親友の悠斗(ゆうと)と、県大会の駅伝の走者の座を争っていた。選考の結果、走者に選ばれたのは「僕」で、悠斗は補欠となった。

十月の朝の空気は、走り出すとすぐに肺の奥まで冷たく届いた。

県大会の駅伝まで、あと二週間。陸上部の練習は日に日に厳しくなっていた。僕は三年になつてやつと、六人の走者のうちの最後の一枠に入った。①名前が読み上げられたとき、うれしさよりも先に、隣に立つ悠斗の顔が頭に浮かんだ。

悠斗とは一年のときから、いつも二人で走ってきた。タイムはほとんど同じで、どちらが速いとも言えなかった。それなのに、今年の選考で走者に選ばれたのは僕で、悠斗は補欠だった。

「よかったな。」

悠斗はそう言つて、僕の背中を軽くたたいた。その手のひらの重さが、いつまでも背中に残つた。

その日から、悠斗は練習のあと、必ず僕の給水の用意をしてくれるようになった。タイムを計るストップウォッチも、いつの間にか悠斗が持っていた。僕はそれがありがたくて、同時に、②のどに小さな骨がひっかかったような、落ち着かない気持ちになった。

大会一週間前の練習で、僕は坂道で足をとられて転んだ。ひざから血が出ていた。立ち上がるうとしたとき、いちばん先に走ってきたのは悠斗だった。

「大丈夫か。無理するな。」

「平気だよ。」

そう言つて走り出そうとした僕の腕を、悠斗がつかんだ。

「無理するなつて言つてるだろ。お前が走れなくなったら、誰が代わりに走ると思ってるんだ。」

悠斗の声は、いつもより低かった。僕は、はつとした。悠斗は補欠だ。僕が走れなくなれば、悠斗が走る。それなのに悠斗は、僕を心配して、僕を止めている。

「……ごめん。」

何に對して謝つたのか、自分でもよくわからなかった。悠斗は少しだけ笑つて、僕の手を引いて立たせた。

「謝るなよ。お前が走るんだから、しっかり走れ。それだけだ。」

③その言葉で、のどにひっかかっていたものが、すつと落ちていった気がした。僕は、悠斗に選ばれたわけではない。でも、悠斗が僕を走らせてくれているのだと、初めて思った。

大会当日、僕の担当は最終区間だった。たすきを受け取ったとき、沿道から悠斗の声が聞こえた。何を言っているのかは、風の音で聞き取れなかった。それでも、④僕は迷わず、前だけを見て走つた。

ゴールしたあと、悠斗が駆け寄ってきた。二人とも、何も言わなかった。悠斗が差し出したタオルを受け取つて、僕は、来年は悠斗が走るのだと、⑤はつきりと思つた。

問1 ①「名前が読み上げられたとき、うれしきよりも先に、隣に立つ悠斗の顔が頭に浮かんた」とありますが、このときの「僕」の様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(4点)

ア自分が選ばれたことに納得がいかず、選考への不満をおさえきれずにいる。

イ選ばれた喜びよりも、同じ力を持ちながら補欠になった悠斗への思いが先に立ち、素直に喜ばずにいる。

ウ選ばれることを前から予想していたので、驚きもなく落ち着いて受け止めている。

エ走者になることをあきらめていたため、名前を呼ばれても実感がわかずにいる。

問2 ②「のどに小さな骨がひっかかったような、落ち着かない気持ちになった」とありますが、このときの「僕」の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(4点)

ア悠斗が何かと世話を焼いてくることを、うつとうしく感じている。

イ悠斗が自分に親切にする本当の理由がわからず、疑いをもっている。

ウ悠斗の支えをありがたく思う一方で、走者になれなかった悠斗に世話をされることを申し訳なく感じている。

エ悠斗のように部員に信頼されていない自分を、うらやましく思っている。

問3 ③「その言葉で、のどにひっかかっていたものが、すつと落ちていった気がした」とありますが、「僕」の気持ちが変わったのはなぜですか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、走らせる、支えの二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。(6点)

問4 ④「僕は迷わず、前だけを見て走った」とありますが、このときの「僕」の様子を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(4点)

ア悠斗の言葉は聞き取れなかったが、その思いはすでに受け取っているので、迷いなく走ること集中している。

イ悠斗の声が気になるが、聞こえないふりをして走ることでごまかそうとしている。

ウ最終区間を任された重圧で、周りの声も耳に入らないほど不安になっている。

エ悠斗のことを意識しないように、わざと前だけを見て走っている。

問5 ⑤「はつきりと思った」とありますが、このときの「僕」の心情を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(5点)

ア悠斗に勝てたことがうれしく、来年も自分が走者になれると自信をもっている。

イ大会が終わって引退することになり、寂しさをかみしめている。

ウ本当は悠斗に走者を譲るべきだったと、後悔している。

エ言葉にしくなくても悠斗と通じ合えたことを感じ、来年は悠斗が走るのだと確信している。

問6 本文の内容や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～オの中からすべて選び、その記号を答えなさい。(5点)

ア「のどに骨がひつかかった」という比喻と、それが「すつと落ちていった」という表現の対応によって、「僕」の心情の変化が印象づけられている。

イ本文は悠斗の視点から語られており、補欠になった者の悔しさが物語の中心に置かれている。

ウ十月の冷たい空気や風の音といった描写が、場面の雰囲気を支えている。

エ短い会話を重ねることで、二人の間の緊張感や関係の変化が伝わるように工夫されている。

オ物語の大部分は一年生のころの回想で構成され、現在の場面は結末にのみ置かれている。

2

問1(1) 次の――部の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に改めなさい。(各2点)
川の流れが緩やかになる。(読み)

問1(2) (2点) 作物が雨で潤う。(読み)

問1(3) (2点) 将来は医学をセンモンに学びたい。(書き)

問1(4) (2点) 最近の気温のケイコウを調べる。(書き)

問2(1) 次の(1)・(2)の――部のかたかなを漢字に表したとき、その漢字と同じ漢字を含むものを、あとのア～エの中からそれぞれ一つ選び、その記号を答えなさい。(各2点)
美術館で絵画をカン賞する。

ア周囲をカン視する。

イ動物の図カンを開く。

ウ手順はカン単だ。

エ歴史にカン心がある。

問2(2) (2点) 駅前に新しい店がカイ店した。

ア工場の機カイを点検する。

イ今日はカイ晴だ。

ウ試合がカイ始される。

エ問題をカイ決する。

問3 次の文章中の――部ア～カの語の中から、品詞が形容動詞であるものをすべて選び、その記号を答えなさい。(3点)

「静かな森の中を歩くと、大きな木がぎれいに並んでいた。おだやかな風が吹き、鳥の声がはつきり聞こえる。この道は、祖父がよく通った道だ。」

――部: ア 静かな／イ 大きな／ウ きれいに／エ おだやかな／オ はつきり／カ この

問4 次のア～エの文の――部の語の中から、品詞が名詞であるものを一つ選び、その記号を答えなさい。(3点)

ア彼は急に走り出した。

イ静かに本を読む。

ウ彼の走りは力強い。

エ今日はかなり寒い。

問5 次の文の空欄にあてはまる慣用句として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(3点)

遠くに住む祖母は、孫の帰省を――一待っていた。

ア首を長くして

イ手を焼いて

ウ目を疑って

エ肩を落として

問6(1) N中学校の三年一組では、学級会で「学校図書館の利用を増やすにはどうすればよいか」について話し合っています。次の「話し合いの様子」を読んで、あとの(1)～(3)に答えなさい。

【話し合いの様子】

司会「今日は、学校図書館の利用を増やす方法について話し合います。まず、現状を確認しましょう。図書委員のAさん、お願いします。」

Aさん「図書館の記録によると、昨年度の一人あたりの貸し出し冊数は年間六冊で、三年前の半分に減っています。利用が少ない理由を聞いたアンケートでは、『読みたい本が見つからない』が最も多く、次が『昼休みは部活動の集まりで行けない』でした。」

司会「ありがとうございます。では、アンケートの結果をふまえて、意見を出してください。」

Bさん「私は、おすすめの本を紹介するコーナーを作るのがよいと思います。『読みたい本が見つからない』という人が多いので、本を選ぶきっかけになると思います。」

Cさん「昼休みに行けない人のために、朝の時間に図書館を開けてはどうでしょうか。」

司会「Bさんは本の選び方、Cさんは開館時間について提案してくれました。「Ⅰ」。ほかに意見はありますか。」

Dさん「Bさんの意見に付け加えます。紹介コーナーは、生徒が書いたカードを置くと、同じ中学生の目線で選べるのでよいと思います。」

司会「では、出た意見をまとめます。「Ⅱ」という二つの方向で、来週までに具体的な案を考えてきてください。」

(1) 話し合いの様子の空欄「Ⅰ」にあてはまる司会の発言として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(3点)

ア私はBさんの案のほうがよいと思います

イところで、図書館の本は何冊あるのでしょうか

ウどちらの案も費用がかかるので難しいと思います

エどちらもアンケートの結果に対応した提案ですね

問6(2) Dさんの発言の工夫として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(2点)

アBさんの意見に反対する立場を明確にして、別の案を提案している。

イ話し合いの流れとは別の新しい話題を持ち出して、議論を広げている。

ウどの意見への発言かを示したうえで、具体的な方法とその理由を付け加えている。

エ意見が分かれたので、多数決で決めることを提案している。

問6(3) 話し合いの様子の空欄「Ⅱ」にあてはまる内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(2点)

ア生徒が書いた紹介カードを置く

イ本を選ぶきっかけを作ることと、開館時間を広げること

ウ図書館の本を増やすことと、アンケートをもう一度行うこと

エ昼休みの部活動の集まりをやめること

3 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(28点)

「わかりやすく話さない。」学校でも家庭でも、私たちはくり返しそう教えられてきた。相手にすぐ伝わる言葉を選び、短く、はっきりと話すことは、たしかに大切な技術である。しかし私は、①わかりやすさばかりを追い求めることには、見落としがあるのではないかと考えている。

たとえば、友人が悩みを打ち明けてきたとき、私たちは何と言うだろうか。「大丈夫だよ」「気にしないほうがいいよ」。わかりやすく、すぐに口に出せる言葉である。だが、その言葉を聞いた友人は、本当に救われるだろうか。むしろ、「この人は私の話をちゃんと聞いていない」と感じることもあるのではないか。

わかりやすい言葉は、多くの場合、すでにできあがった言葉である。決まり文句や流行の言い回しは、考えなくても口から出てくる。それは便利だが、目の前の相手のためだけに選ばれた言葉ではない。だれにでも当てはまる言葉は、裏を返せば、②だれのための言葉でもない。

これに対して、言葉に詰まりながら話す人がいる。「うまく言えないんだけど」「なんて言ったらいいのかな」。一見、わかりにくい話し方である。しかし、その人は、目の前の相手に合う言葉を、その場で探している。言葉に詰まることは、相手を真剣に見ていることの表れでもあるのだ。もちろん、わかりにくければよいというわけではない。伝える努力を放棄して、わかりにくい言葉をそのまま投げ出すのは、ただの不親切である。私が言いたいのは、わかりやすさには二種類あるということだ。一つは、あらかじめ用意された言葉を使う、③速いわかりやすさ。もう一つは、相手のためにその場で言葉を探し、ときに詰まりながらたどり着く、遅いわかりやすさである。

情報があふれる時代には、速さが求められる。短い言葉で、すぐに反応する。それができる人が「伝え上手」と呼ばれる。だが、人と人との関係は、速さだけでは築けない。相手のために時間をかけて言葉を探すという行為そのものが、相手への敬意を伝えているからである。

④沈黙もまた、言葉である。友人の悩みを聞いて、すぐに言葉が出てこないとき、その沈黙は「あなたの話を受け止めている」というメッセージになりうる。言葉を急がないことが、ときに最も雄弁なのだ。

わかりやすく話すことは、これからも大切である。ただ、その「わかりやすさ」が、だれのためなののかを、一度立ち止まって考えてみたい。目の前の相手のために言葉を探す時間を、私たちはもう少し、大切にしてもよいのではないだろうか。

問1 ①「わかりやすさばかりを追い求めることには、見落としがあるのではないか」とありますが、筆者が考える「見落とし」の内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(4点)

ア わかりやすく話す技術は、学校で十分に教えられていないこと。

イ わかりやすい言葉は、正しく伝わらないことが多いこと。

ウ わかりやすさを優先すると、目の前の相手のために言葉を選ぶことがおろそかになること。

エ わかりやすい言葉を使う人は、相手から信頼されなくなること。

問2 ②「だれのための言葉でもない」とありますが、筆者がこのように言う理由を説明した文として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(4点)

ア 決まり文句のような言葉は、だれにでも当てはまる代わりに、目の前の相手のために選ばれた言葉ではないから。

イ 決まり文句は多くの人が使うので、本来の意味が伝わらなくなっているから。

ウ 流行の言い回しはすぐに古くなり、使えなくなってしまうから。

エ わかりやすい言葉は単純すぎて、聞き手が内容を理解できないから。

問3 ③「速いわかりやすさ」とありますが、筆者は「遅いわかりやすさ」とはどのようなものだと述べていますか。次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、相手、探すの二つの言葉を使って、二十五字以上、三十五字以内で書きなさい。ただし、二つの言葉を使う順序は問いません。(6点)

問4 ④「沈黙もまた、言葉である」とありますが、この部分の説明として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(4点)

ア 人と話すときには、無理に言葉を発する必要はないということ。

イ すぐに言葉を返さないことが、相手の話を受け止めているというメッセージを伝えることがあるということ。

ウ 会話の中の沈黙は、気まずさを生むので避けるべきだということ。

エ 沈黙は、どんな言葉よりも必ず優れた伝え方だということ。

問5 本文の構成や表現について述べた文として適切でないものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(5点)

ア 冒頭で一般的に教えられている考えを示したうえで、それに対する疑問を提示して論を始めている。

イ 友人が悩みを打ち明ける場面という身近な例を挙げて、読者に自分の経験と重ねて考えさせている。

ウ 調査によって得られた数値のデータを示し、主張の正しさを裏づけている。

エ 「速いわかりやすさ」と「遅いわかりやすさ」という二つの言葉を対比させて、主張を整理している。

問6 本文に述べられている筆者の考えとして最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(5点)

ア わかりやすく話す技術はもはや不要であり、言葉に詰まりながら話すべきである。

イ 情報があふれる時代には、短い言葉ですぐに反応できる人こそが信頼される。

ウ 言葉で伝えるよりも、沈黙で伝えるほうが常に優れている。

エ わかりやすさは大切だが、それがだれのためのものかを考え、相手のために言葉を探す時間も大切にすべきである。

4 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(カッコ内は口語訳です。)(16点)

仁和寺にある法師、年寄るまで石清水を拝まざりければ、心うく覚えて、ある時思ひ立ちて、ただ一人、徒歩より詣でけり。極楽寺・高良などを拝みて、①かばかりと心得て歸りにけり。(仁和寺にいる法師が、年をとるまで石清水八幡宮を参拝したことがなかったので、残念なことに思つて、ある時思ひ立つて、たった一人で、徒歩で参詣した。極楽寺や高良神社などを拝んで、これだけのものだと思ひこんで歸つてしまつた。)

さて、かたへの人にあひて、「年ごろ思ひつること、果たしはべりぬ。聞きしにも過ぎて、尊くこそおはしけれ。②そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん、ゆかしかりしかど、神へ参るこそ本意なれと思ひて、山までは見ず。」とぞ言ひける。(さて、仲間の人に会つて、「長年思つていたことを、果たしました。聞いていたのにもまさつて、尊くていらつしやいました。それにしても、参詣していた人がみな山へ登つていたのは、何事があつたのだろうか、知リたかつたけれど、神へお参りすることこそが本来の目的だと思つて、山の上までは見ませんでした。」と言つた。)

③少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。(ちよつとしたことにも、その道の先導者はあつてほしいものである。)

(注) 仁和寺(にんなじ) ……京都にある寺。 石清水(いはしみづ) ……石清水八幡宮。山の上にある神社。 極楽寺・高良(ごくらくじ・かうら) ……石清水八幡宮のふもとにある寺と神社。 かたへの人 ……仲間の人。 先達(せんだち) ……その道の先導者・案内役。

問1 「おはしけれ」を、現代仮名遣いに直して、すべてひらがなで書きなさい。(4点)

問2 ①「かばかりと心得て」とありますが、このときの法師の思ひこみの内容として最も適切なものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。(4点)

ア 石清水八幡宮は、この場所にはないのだと思ひこんだ。

イ 山の上は、石清水八幡宮とは関係のない場所だと思ひこんだ。

ウ ふもとの極楽寺や高良神社が石清水八幡宮のすべてだと思ひこんだ。

エ 今日のはれたので、もう一度来ればよいと思ひこんだ。

問3 ②「そも、参りたる人ごとに山へ登りしは、何事かありけん」とありますが、法師が山へ登らなかつた理由を次のようにまとめるとき、空欄にあてはまる内容を、現代語で十字以上、二十字以内で書きなさい。(4点)

問4 次は、この文章を読んだあとのAさんと先生の会話です。空欄にあてはまる言葉として最も適切なものを、あとのア～エの中から一つ選び、その記号を答えなさい。（4点）

【会話】

Aさん「法師は、本当の石清水八幡宮を拝まずに帰ってしまったのに、『尊くこそおはしけれ』と満足していますね。」

先生「そうですね。作者の兼好法師は、この話の最後に③『少しのことにも、先達はあらまほしきことなり』と書いています。作者は、この法師の失敗からどのようなことを言いたかったのだと思いますか。」

Aさん「――ということだと思います。」

ア 何事も人にたよらず、自分一人で成しとげるべきだ

イ どんなに小さなことでも、その道をよく知る案内役がいるとよい

ウ 神社や寺に参詣することには、あまり意味がない

エ 目的を果たせなくても、本人が満足していればそれでよい

（以上で問題は終わります。）